第3回 新嵐山スカイパーク自分ごと化会議　議事録

1. 開会

2　一般社団法人構想日本　加藤代表理事あいさつ

　前回の振り返り　（一社）構想日本　統括ディレクター　伊藤氏

　・これまで2回の会議を開催し、前回は改善提案シートを委員の皆さんに書いてもらった。

改善提案シートに記載されている内容に基づき整理したものが、「新嵐山スカイパーク自分

ごと化会議に関する中間とりまとめ」である。

・今回はナビゲーターとして、芽室町外で地域づくりや住民と一緒に物事を進めていく手法

を進められている2名の方にナビゲーターとして参加いただく。それぞれグループワーク

にも参加いただく。

　・委員の皆さんには、今回もグループワーク終了後に改善提案シートを記載いただく。

　・次回（3月4日）開催の会議に向け、今回の改善提案シートを基に提案書案を作成し、委員

　　に提示し、集約する。

したがって、周囲から聞いた新嵐山に関する事なども併せて、新嵐山の感じることをすべて出していただきたい。

・前回、改善提案シートで提出されたA・Bグループの意見を整理し、以下の4つの項目に大別している。

1 資源や財産の有効活用　　2 町外・町内双方に向けたPRの強化

3 経営収支の改善　　　　　4 主な利用者像の明確化

・今回は、この「中間とりまとめ」を参考に議論いただいても、全く違う議論をして頂いても構わない。今まで話した内容など、ここでの反応を含めて委員みなさんに知って頂ければと

　思っている。

3　ナビゲーターからの問題提起

○株式会社さとゆめ 代表取締役　嶋田氏

　・今回の議論の参考になりそうな事例を紹介したい。

・「700人の村がひとつのホテルに。」一つの村をまるごとホテルに見立てるというコンセプト

が多くのメディアに取り上げられた。

　・何かしらのジャンルで一番になることを目指した。古民家ホテル…分散型ホテル…何かしら

　　の要素を組み合わせるとオンリーワンになれる。

　　小菅村は、古民家活用×分散型×地域運営型×地域まるごとの4つの要素でオンリーワン

　　になれる。これを一言で表すと「村まるごとホテル」となった。

　　新嵐山にはドッグランやキャンプ場など、特徴的な要素があると思うので、どういう要素

を組み合わせると周辺地域に無いものになれるかを考えて頂ければと思う。

新しいカテゴリーやジャンルをつくること。

　・新嵐山でも客数で勝負するのか、客単価で勝負するのかを考えていかなければならない。

人口減少の状況下では客数で勝負するのは難しいので、客単価から施設のハード・ソフト

を計画した。

客数・客単価から逆算したハード・ソフトの計画が重要である。

　・付加価値を生み出す、コストの柔軟性を生み出す、地域住民を巻き込む。

　　新嵐山周辺にも星野リゾートなどの大型施設があると思うが、差別化を図るためには地域

住民と共にお客様を迎えることが必要である。

・地域ぐるみ、地域まるごとなど、その地域の範囲を考えてみること。

地域への愛着や誇りというものが、地域の人々が変わる原動力となった。したがって、愛着

や誇りに基づき範囲を考えることも重要である。

地域住民を巻き込み、新嵐山スカイパークを一緒に盛り上げようと考えた場合、地域住民の

範囲は芽室町全体なのか、新嵐山周辺なのか、その点も重要である。

　・ホテル開業などの前には実証実験を行い、お客さまの反応を確認した。

新嵐山でも小さな成功体験を積み重ねながら、本格実施につなげていけば良いと思う。

○高野ランドスケーププランニング株式会社 代表取締役　金清氏

　・札幌市旭山記念公園の再整備の事例を紹介。

・取り組むにあたっては、住民からの意見要望を聞くだけではなく、議論しようと考えた。

そして、全て情報共有することとした。

・ワークショップを２週間に１回ペースで開催し、１年間行った。

・ワークショップなど活動している内容を多くの人に知ってもらうため、ホームページや広報

で積極的な情報発信を行った。

・ワークショップでは、参加者から意見を募り、実証をしながら進化論的な進め方をした。

出された意見は全て採用し、実証を行った。

・色々な人の意見をくみ上げていく作業を丁寧に行った。

・新嵐山スカイパーク自分ごと化会議に参加する委員の皆さんにお伝えしたいのは、自分ごと

として皆さんがどこまで関わっていくのか。例えば、管理運営まで関わるのか、施設を利用

するという点で関わっていくのか。

できれば計画段階に限らず、実施される事業などにも関わり続けてほしいと思う。

4　グループワーク

　・別紙議事録を参照のこと。

5　グループワークの振り返り　（一社）構想日本　加藤代表理事

・行政及び経営陣と住民の距離が遠いのではないか。

　・町民はすごく関心あるが、あまり知らない。町民がどのように関わっていくのかが大事で

ある。

・小菅村の道の駅で野菜を販売することに生きがいを感じるという事例やグループワークで

意見のあった関わることで楽しくなることなど、キーワードは参画である。

・芽室町に当てはまるかわからないが、外に向けて様々なことを進めれば、結局地元の人が

お客さんとして関わる以上の関わり方になるというのが小菅村のケースであった。

　・新嵐山スカイパークは、スキーをする人やドッグランを利用される人など様々な人たちが

集まっており、敷居が低いという点はすごく大事なことだと思う。

サスティナブルやインクルーシブなどキーワードになるかもしれない。

6　その他

　・次回以降の会議については、議案に記載のとおり。

7　閉会